

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272200132		
法人名	有限会社 グループホーム天意		
事業所名	グループホーム天意		
所在地	長崎県五島市大荒町1310番地12		
自己評価作成日	平成30年7月30日	評価結果市町村受理日	平成30年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成30年9月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ旬の野菜の収穫、鳥の鳴き声で季節を感じ、日々穏やかに過ごすことができます。会社の理念でもある「笑顔と元気と温かい介護でホットする家庭」に基づいた家庭的な雰囲気の中での共同生活で残存能力を十分に発揮して頂き、一日一日を楽しいと満足が得られるように支援に努めています。毎年行われる施設全体での秋の大運動会は、地域の保育園児にも参加頂き、子供たちから元気(パワー)をもらえることが事のほか何にも変えがたい行事の一つです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念を「笑顔と元気と暖かい介護で、ほっとする家庭」と掲げ、職員は日頃から入居者の「その人らしさ」を尊重する姿勢で介護の実践に努め、認知症であっても本人の「選び、決める力」を認識し、また、入居者からも学びを得る事で、育て合うチーム創りに向けて取り組まれている。ホームの庭では、地域の方や保育園児を招いて関連施設と合同で秋の大運動会の実施や敬老会を行ったり、中学生の職場体験を受け入れるなど、地域の一員として交流がなされている。食事は、旬の食材を提供し、つわの皮むきや佃煮づくりなど入居者本人に出番をつくり、職員も入居者から学びながら一緒になされている。職員同士のフィードバックもよく、急な休みにも互いにフォローし合える職場環境で、管理者とも気軽に相談できておりコミュニケーションも良好であることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔と元気と暖かい介護でほっとする家庭を施設長、すべての職員が目標にし一日一日を有意義に過ごされている。	ホームの理念を「笑顔と元気と暖かい介護で、ほっとする家庭」と掲げ、職員は日頃から入居者の「その人らしさ」を尊重する姿勢で介護の実践に努めている。職員は認知症であっても本人の「選び、決める力」を認識し、また、入居者からも学びを得る事で、育て合うチーム創りに向けて取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会、敬老会、ホームの大きな行事には地域の住民や近くの保育園児に声をかけて参加していただいています。	ホームの庭では、地域の方や保育園児を招いて関連施設と合同で秋の大運動会や、七夕祭り、敬老会などの行事を行ったり、中学生の職場体験を受け入れるなど、地域の一員として交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方、面会し来てくださった方より相談を受けた時には、アドバイスし些細なことでも支援できるように心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、町内会長さんや市職員も参加されたうえで行事等の報告や他者の意見を聞き入れ実践につなげている。	運営推進会議には入居者をはじめ、町内会長、市職員とホームの職員、事務長、計画作成担当者等が出席し、ホームの現状や活動状況、活動予定等を伝え、出された意見を運営に活かすよう努めている。	入居者の個人情報に配慮しながら、現場のヒヤリハット・事故報告についても運営推進会議の議題として挙げることで、職員の意識づけと運営の更なる透明化を図ることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護、権利擁護、障害担当者に手帳更新の手続き、医療券等の発行受診などについての相談と連携を行っている。	運営推進会議に市の介護課担当職員が参加されており、関係法令の情報や助言を得ているほか、生活保護や権利擁護の対象者には、担当課や社会福祉協議会と協力しながら適切な対応に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常日頃より身体拘束をしないケアを職員全員で話し合い拘束について理解し拘束しないケアをしている。	現在、身体拘束が必要な入居者はいない。ホームでは身体拘束についての勉強会を開催してその弊害を理解し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どんな状況の時でも虐待を許されるべきではない、全職員が理解し心掛けケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されているご利用者さんもおられるので担当職員に質問したりご家族の相談にもなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、ご利用者ご家族様に見学をしていただき説明をおこなっている。契約後、不平不満がある時には遠慮なく言っていたけように常に申しあげている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者が地元でなじみの関係ができています。職員もご家族の知っている人が多く面会時は要望なども職員に遠慮なく話されている。	ホームでは、誕生会や運動会などの催しや行事が定期的であり、入居者の家族を交えて行い、気軽に要望等を言ってもらえるような関係づくりがなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で職員一人一人の意見を聞いたりまた個人的に相談を受けたりしている。	管理者は、職員と積極的に関わりを持ち、コミュニケーションも良好であることが窺える。急な休みにも互いにフォローし合える職場環境であり、今回、新たに看護師兼ケアマネージャーも加わり、更なる運営面での充実が期待できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいように勤務時間の調整や楽しくやりがいのある職場づくりのために施設長管理者ともども努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長、管理者は研修参加の声掛けを行い職員全員がなるべく参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームに関する研修会や交流会等に参加し質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人さんの困っていること不安な事をどのようにしてもらいたいか話を聞いて要因や背景を探っていくように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていること要望不安を聞きわかりやすく説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、事情を伺う中で必要に応じて連携施設や他の事業所、施設等の支援制度について説明の助言をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下準備、後片付け、体操、レクリエーションを毎日職員と一緒にしておりそうした共同生活のなかで支えあい関係を築くことができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、面会時は日頃の状況をお伝えしたり遠方におられる方には電話、手紙で知らせている。ご本人さんの誕生日や行事の時は一緒に食事をしていただけるように呼びかけを行い一緒に楽しむことができるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者と一緒になじみの店に出かけたり親しい友人に声掛けお招きし一緒に食事したり楽しい時を過ごすように支援している。	地域の方たちとは馴染みの関係を築くよう努められており、行事や催しには地域の方を招いたり、外食や墓参りといった機会を設け、本人が大事にしてきた繋がりが途切れないよう努めている。	身寄りがない方や家族との関係性が疎遠となってしまう方も窺える。介護支援をよりよいものにするためにも本人の新たな情報をアセスメントし、例えばエコマップの作成を充実させるなど、アセスメントの重要性を全職員が理解して今後の介護実践へ更に活かすことを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、食事、散歩や外出等のなかで職員は互いの関係を配慮し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度ホームに入居されてた方とのご縁を大切にし退去後も入院先に面会し訪ねたりその後の様子を家族に聞いたり時には買い物のお手伝いをしたり相談をうけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや暮らし方これまでの生活ぶりなどをご本人から聞ける時はお聞きしその人らしい生活が送れるように取り組んでいる。	発語ができないような入居者には、事前に得た情報や本人の動作・表情を見て意向の把握に努めるなど、本人本位に検討し取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを行う。これまで生活されていたご近所の方にも生活状況をお聞きする等に状況把握に努め利用者が安心して暮らす生活環境づくりに役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のできること、得意なことは見極めを常に職員間で出し合い把握している。その時の体調、精神状態に応じて無理せず本人の意向に任せている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が面会にみえられたときご本人を交えて話し合いを行っている。島外におられる方にはお電話で話をお聞きしている。職員会議でカンファレンス、モニタリングを行い介護計画を作成している。	直近(8月末)に介護計画作成担当者の退職に伴い、新たに看護師兼介護計画作成担当者が入職し、引き続き職員間での意思疎通を図りながら本人の意向や職員からの情報を得、カンファレンス、モニタリングを通じて現状にあった介護計画を作成するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアにチェックをおこない職員が情報を共有できるようにしている。実践結果から気づき見直しなども話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診援助、友人親類宅への訪問援助希望の外出などのできることは柔軟な対応をしている。中学生の職場体験実習の「受け入れやボランティアの希望があれば受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人で外出したい等の希望があった場合は介護タクシー事業所と相談したり目的地の方に事前に相談し目的が達成できるように配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族には入居時に、医療を受ける際のご希望をお聞きし要望に沿って対応している。身体状態の異変や異常には早期発見受診を心掛け症状に寄っては医療機関をご家族と相談しながら選んでいる。	ホームでは月に1回の往診と、必要に応じて職員が同行し、受診支援がなされている。受診時には職員が介護日誌を持参し医師に入居者の現状を伝えている。入居者の変化があった場合は、家族にも伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から利用者の細かな異常や異変に気づき確実に報告しあうようにしている。受診については施設長をはじめ看護師職員と共にかかりつけ医やご家族と相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は管理者や看護師が対応に当たり病院関係者やご家族等との連絡を取り合い情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にある程度のことは本人、家族の意向をお聞きしている。重度化した場合や終末期にどうしたいのか、その都度状態に応じて家族、主治医と連携し取り組んでいる。	ホームでは終末期に関する基礎知識について、看護師等を交えて勉強会を行っている。入居時に家族等より終末期の意向を窺っている。本人の終末期をむかえ、家族、医師とも連携した対応がなされている。直近(5月)においても看取りがなされ、医療と連携した支援の経過が記録に残されていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルもあり看護師から常に応急手当は教えてもらっている。状態によってはすぐ施設長、看護師に来てもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時の避難訓練は年2回、総合(通報・避難・消化)を消防署の職員、時には近所の方にも参加していただき職員も意欲を持って取り組んでいる。	消火・避難訓練は年2回実施されており、体調等に配慮した上で入居者も参加されている。今年度は10月に消防訓練を予定している。5月の避難訓練の際には午前中に台風を想定した訓練を行い、入居者のファイル、非常食、救急箱等の点検を実施している。	ホームの備蓄品については3日以上を備蓄できるよう検討し、リスト化しておくことが望ましい。また、ハザードマップについても確認できるよう掲示する等して職員に周知し共有する事が望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の気分を壊さないような声掛けやコミュニケーションの取り方については、職員会議、申し送り時に常に話し合いを行いその人その日の状態に対応している。	管理者は、年長者である入居者を尊重する姿勢で介護を実践するよう職員会議や申し送り等を通じて職員に話している。精神的に不安定な入居者に対しても注意深く観察し対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ選択の幅を持たせご本人の希望に沿うようにしてる。何事も無理のない範囲で能力に合わせて取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大事にし自分のペースで過ごさせて。「今日は何をしたいですか、何を食べたいですか?」と問いかけてできる限り希望に沿えるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者と一緒に買い物に行き。お化粧品、洋服を選ぶお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のものをいち早く食べてもらってる。ツワの皮むき、ソラマメの皮むきをご利用様が自慢げに職員に教えてください。野菜の皮むき等も職員と一緒にしています。	ホームでは、食材の皮むきや佃煮といった食事の下ごしらえなど、入居者の出番があり、職員も入居者から教わりながら一緒になされている。野菜など農産物は地域の方から頂くこともあり、旬の食材が提供されていることが窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、水分は毎日把握し日中足りない分は夜間帯に摂っていただいている。その人の状態の応じて、刻み、ミキサー食、とろみをつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き義歯洗浄、口腔ケアを行うように支援している。仕上げは職員がチェックして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄状況を職員が把握できるようにしている。食後は排泄誘導や声掛けをおこない対応している。	職員は排泄チェック表を記入し、早目の声掛けと排泄誘導を心がけていることが窺える。日中のポータブルトイレ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より薬で調整するのではなく食物繊維の食材、バナナ・ヨーグルト等を調整するように心がけている。必要に応じて服用等の対応もおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏場は週に3~4回、冬場は2~3回入っていただいている。入浴の時間順番は希望に沿ってなるべく希望通りに入浴できるように努めている。	入浴日は季節によって異なるが、月曜日、水曜日、金曜日を基本に支援がなされている。重度の方については、職員2人体制で入浴支援を行う場合もある。入居者の希望に応じて入浴剤やゆず湯など入浴を楽しめるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中倦怠表情がみられるときは居室で休んでいただき無理のない生活が送れるように支援している。睡眠状態のチェックもおこない日中の過ごし方も考えて支援しています。布団干しも細目に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関することは日々の申し送り連絡ノートで確認し合っている。服薬管理の徹底や利用者の症状の変化に早期に気付く為、職員同士が些細なことでも細かく記録するように心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下処理、切ること、盛り付け等自ら進んでして下さる。新聞折りやごみ箱づくり、洗濯物たたみ、それぞれ利用者さんの得手不得手にあわせて声掛けし支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日は日向ぼっこ、ホールの前で昼食、散歩、ドライブ、買い物などの支援をしています。	買い物や近隣の散歩など、職員は入居者本人の状態を見極めながら外出の支援がなされている。2ヶ月に1度の訪問美容師による支援も行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の能力にあった金銭管理を行えるように努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要性や希望に応じて連絡等の支援をしています。携帯電話を持参してる方も居て使い方の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるように玄関先の花壇に花を植えて時には利用者さんと一緒に水かけをしています。春には花壇にチューリップを植え利用者さんが名前を付け観察を楽しまれています。	ホームの周囲は長閑な環境で、共用空間においても適宜換気がなされ、気になるような臭気もなく不快に感じる事はない。入居者それぞれが思いおもいに過ごされている様子で、職員がやさしく見守られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下の長いすで、なじみの方々が過ごせる場所があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に写真、飾り物、ぬいぐるみ、テレビ、テーブル等を持ってこられている。不安なく自由に過ごされています。	居室には入居者本人の使い慣れたものや好みのものを自由に持ち込むことができるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行障害がある方にはなるべくトイレ洗面所に近い場所に席を用意している。トイレの場所や居室がわかるように絵をかいたり名前を大きく書いている。		